



學 穂

令和 7 年度 広州日本人学校
学校だより No.3
令和 7 年 6 月 27 日
発行責任者 校長 大久 耕

～ 2025 年 広州日本人学校は 開校 30 周年です ～

世界の架け橋に



1 年で最も日が長い時期となり、厳しい暑さが続いています。子供たちは、来週末に迫った音楽発表会に向けて、日々練習に励んでいます。

さて、学校では、この 1 か月間にさまざまな教育活動が行われましたが、とくに、「中国や世界と触れ合う」場面がたくさんありましたので、ご紹介します。

今年度は、学校運営のキーワードに「つながり」を挙げていますが、これからも多くの人や文化と「つながり」を大切にしたい教育活動を進めてまいりたいと思います。

【小学部全学年】東風東路小学交流(5 月 27 日)

本校と東風東路小学との交流会は、20 年以上の歴史があります。早い年齢から、お互いを理解し合い、より良い関係を築けるように、十分な準備の下に進められています。今年度は、それぞれの学校を 1 回ずつ訪問する形で実施します。

1 回目は、1・2 年生が東風東路小学の東風広場校区、3～6 年生が天伦校区をそれぞれ訪問いたしました。約 2 時間の活動で、前半は互いに親しくなるための活動、後半は中国の文化に触れる活動を中心とした内容でしたが、どの児童も「中国語で話ができたい」、「仲良くなれたよ」といった声が聞かれ、とても良い時間にする事ができました。次回は、11 月を予定しています。



【小学部 3 年生】国際学校交流(6 月 4 日)

広州には、本校の他にもさまざまな国の子供たちが通う学校があります。今回はその中の一つ、東莞市にある主に台湾出身の子供たちが通う学校の 3 年生が、本校を訪問してくれました。

「歓迎の踊り」に始まり、レクリエーション・ゲーム、日本の紹介などに続き、相手校の児童へのインタビューなど、ホスト校として短い時間ながら、準備や活動に力を注ぎました。

お互いに満面の笑みを浮かべて記念撮影をする様子に、心と心が通じ合ったことが感じられました。



【小学部 6 年生】修学旅行 ～西安市～（6 月 4 日 ～ 6 日）



小学部 6 年生が修学旅行で西安市（古都長安）を訪問しました。玄奘三蔵（三蔵法師）ゆかりの慈恩寺（大雁塔）や兵馬俑博物館、弘法大師（空海）が学んだ青龍寺などを見学しました。

「聞いたことは忘れ、見たことは覚え、経験したことは身につく」と言われます。城門や兵馬俑など、日本には教科書の挿絵でしか見られない物を直接見て、触れたことで、中国の歴史や日本とのつながりについて理解を深める大切な機会となりました。

【中学部 2 年生】修学旅行 ～北京市～（6 月 17 日 ～ 20 日）

中学部 2 年生は、修学旅行で北京市を訪問しました。

北京市には多くの世界遺産があり、歴史的にもとても価値の高い場所ですが、今回の修学旅行では文化や歴史ばかりでなく、多くの人たちと触れ合う機会を活動に取り入れました。



北京少林武術学校では、カンフーを学んだあとに、交流の時間を設けて互いに話をしたことで、同世代の中国の少年（生徒は男子のみのため）たちが、どんなことを考えているのか、将来の目標は何かなどを知ることができました。その他にも、宿舎となったホテルのスタッフにインタビュー、ユニバーサル北京リゾートでの班活動、日本大使館での横地主席公使からの講話など、人と触れ合う活動をおして、生徒が成長していく姿を顕著にみることができました。

【中学部 3 年生】職場体験学習（6 月 25 日・26 日）

中学部 3 年生が、4 グループに分かれて、職場体験学習を行いました。今年度は、广汽ホンダ様、全日本空輸様、スイスホテル様、広州ヤクルト様にご協力をいただきました。

この学習は、実際の労働を体験することはもちろんですが、働くことの意義や心構え、職業選択の考え方など、生徒がこれから進路選択をしていくうえで参考となる、多くのことを学ぶ機会として設定しています。

ご協力いただいた企業の皆様、ありがとうございました。



～ 学校長日記 ～



恒例の音楽発表会がいよいよ来週に迫ってきました。休み時間も校舎のあちこちからリコーダーの音色や歌声が聞こえてきます。民俗音楽学者の小泉文夫は、世界各地の音楽を取集する中で「文字を持たない民族はあっても、歌を持たない民族はない」と人類の生活における音楽の立ち位置（必要性）を述べていますが、子どもたちの奏でる音楽が、言葉以上のものとなって、子供たちのここ広州での思いをご来賓や保護者の皆様に届けてくれるものと信じています。